

## 12月20日 会員卓話



### 小林利雄 会員

皆さん、こんばんは。今日のテーマは自己紹介と言うことでお話させていただきます。

その昔、旅人同士が旅籠で自己紹介するときは、まずは生まれた国（生まれ故郷）を紹介します。東北生まれだよ、関西の生まれだよ、関東の生まれだよとか、そこから話しが始まるわけですね。これが日本の文化の1つかなと感じます。生まれ故郷を聞くと、その人の雰囲気・人柄がだいたいイメージできるわけです。温かそうな人、せっかちそうな人、短気そうな人など色々ですけど。私は、人生という長い旅路の中で、皆さんと八潮みらいロータリークラブを通じて、こうして出会ったことは何かの運命なのかなと感じているところです。

私は、昭和 27 年 12 月 20 日早朝、台東区入谷、入谷鬼子母神で産湯を浸かり生まれました。この世に生まれて来るときから、母親泣かせの逆子だったそうです。誕生日が来るたびに『誕生日は母に感謝する日だよ』と教えられました。感謝、感激です。当時は、戦後 7 年目で浅草は、焼け野原で空き地が多く、かつてに家を建てられないよう敷地を鉄条網で囲っていたそうです。

ある日、親父が私をほろ酔い気分で肩車して歩いていると、道の穴に躓いてころんだそうです、私はというと、鉄条網に引っかかって宙ぶらりんになっていたそうです。そのときの楽しい傷跡が今も身体と心に残っています。(笑い)

親父の職業柄、家にはいつも 4~5 人の若い衆が住み込みで働いていました。食事も寝起きも、その人達と一緒に生活を共に暮らしてきました。私は一人っ子でしたが、血気盛んな年上の兄貴たちの中で末っ子という環境で生活してきたのが現実です。義理と人情の大切さを教えられたのも、その人達の御陰と感謝している今日この頃です。

平成 24 年 12 月 20 日木曜日、還暦の誕生日にこうして八潮みらいロータリークラブ第 41 回例会の卓話で、生い立ちを話させて頂くのは偶然にしては良くできているなと感謝しております。

縁起を担ぐのは、下町育ちのせいかもしれませんね。今後ともロータリーファミリーとして、またはブラザーとして懇親を深め、お互い白髪の生えるまでご指導お付き合いのほど、宜しくお願い致します。